

2. しつけ

正しいしつけは 子どもへの大切な贈り物。



- 子どもは「親」のぬくもりを求めています。
- 子どもはSOSがうまく言えない。
- ルールってだれのためにあるんだろう。
- 子どもの言うことを何でも聞くことが、親のやさしさとは限らない。
- 良いことをしたときはしっかりほめてあげる。
- 感情にまかせて叱ることとしつけとは違う。
- いちぼんの友達はテレビ、なんて寂しすぎる。

子どもは「親」のぬくもりを 求めています。



人は愛され理解されたがっている存在です。理解されないときの不満がたまるとキレることもあります。突然子どもがキレたとき、本人も親も理由がよく見えず、怒ったり苦しんだりしますが、理由はあるのです。

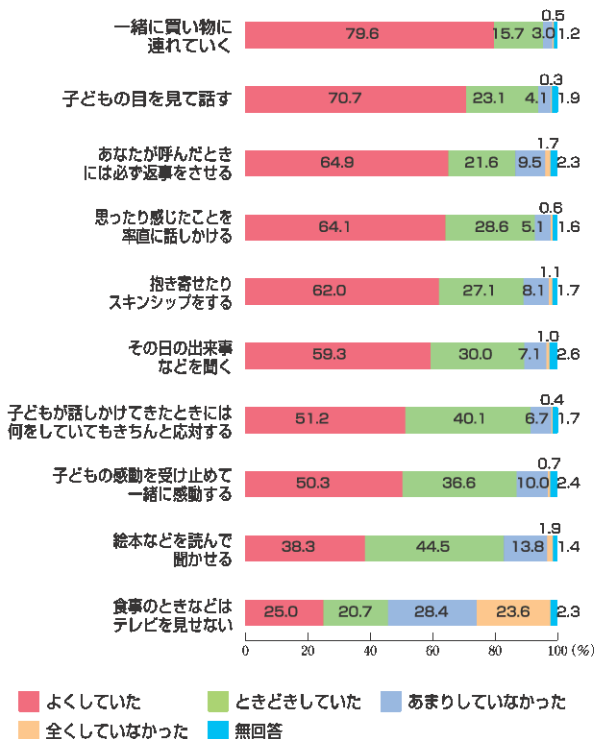
日ごろから相手の話をじっくり聞く、同じ目の高さで考える、深い関心を払う、といった姿勢を親が身につけることで、子どもは親に愛されている実感を得ることができます。

子どもは愛されていると感じるとき、安定した気持ちで問題に立ち向かうことができます。そして不必要に攻撃的にならず、他者や問題を受け入れることができ、大きく成長できるのです。

**子どもが愛されていると実感できる
コミュニケーションをする**



幼児期のときのコミュニケーションについて



(注) 25歳～54歳までの男女約3,900人を対象に調査。

資料：「家庭の教育力再生に関する調査研究」平成13年・国立教育政策研究所内「家庭教育研究会」

子どもはSOSがうまく言えない。

親のイライラした感情やスキンシップの不足、過保護・過干渉などは子どもの心の健康に影響を及ぼし、それは、しばしば身体的なサインになって現れます。

腹痛・吐き気・下痢・食欲不振・めまい・頭痛・発熱といった症状や過食・不眠・指しゃぶり・爪かみといった行動までさまざまなサインがあります。サインに気づいたら、病気だと心配するだけでなく、心つめの問題が原因になっていないか考えましょう。

「気のせいだ」「わがまま」「ズル休み」というような言葉で片づけず、様子をよく見、話をよく聞き、理解しようとする姿勢が大事です。

また、かかりつけの医師にもよく相談してみましょう。

心理的な問題による身体からだ・行動のサインの例

身体：腹痛・吐き気・下痢・食欲不振

めまい・頭痛・発熱

行動：過食・不眠・指しゃぶり・爪かみ

子どもの身体や行動に現れるサインを見逃さない



ルールって だれのためにあるんだろう。

子どもたちは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、きちんとした姿勢などの生活上のルールもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道德上のルールもあります。

しつけに一貫性をもたせ、しっかりと身につけさせるためにも、夫婦がよく相談してはっきりしたルールをつくり、子どもとともに親もそれを守りましょう。また、子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も大切です。

我が家の生活の約束事やルールをつくる

子どもの言うことを何でも聞くことが、 親のやさしさとは限らない。

安易にモノを買い与え過ぎると、子どもは欲しいモノを手に入れるために努力したり、我慢したり、工夫したりすることができなくなります。そして、やたらとモノを欲しがり、自分の気持ちを抑えられなくなってしまいます。

ねだられても必要以上のモノを買い与えないこと。こづかいは多すぎず決まった額の中で自分でやりくりさせること。

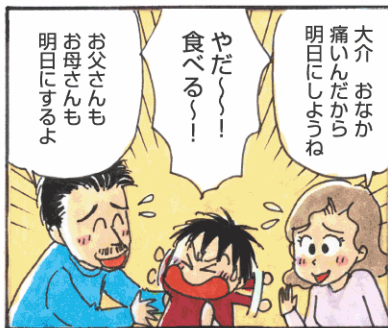
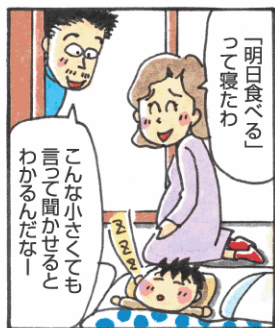
子どものためを思うなら、お金より、心や愛情を使いましょう。



子どもに我慢を覚えさせる



本和加家の場合②



良いことをしたときは しっかりほめてあげる。



「自分さえ良ければいい」「ルールを守らない」という人は、なかなか人から信頼されないものです。子どもがそういうことをしたとき、ちゃんと正さないと、それでいいのだと勘違いした困った人に育ってしまうかもしれません。

「自分の子だけ良ければいい」という考え方（自子主義）はやめ、間違っことは愛情をもって本気で叱り、正しくしつけましょう。

そして、親自身もルールに反することはしないように気をつけましょう。子どもに信頼され、尊敬される親であり続けるためにも。

間違っ行いはしっかり叱る



感情にまかせて叱ることと しつけとは違う。

しつけは大切ですが、しつけなくては、という気持ちから、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか」「子どもはどう受けとめるだろうか」、まずここから考えてみましょう。

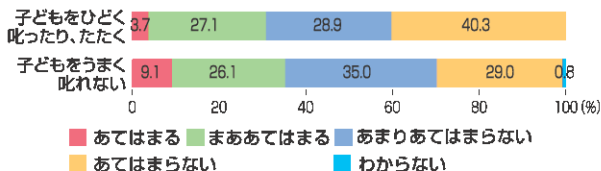
子どもの心や身体を傷つけるような叱り方は、教育的な効果がないばかりでなく、児童虐待につながる可能性もあります。

なお、「児童虐待の防止等に関する法律」で「児童虐待」とは、保護者が18歳未満の児童に行う①身体的外傷やそのおそれのある暴行②わいせつな行為をしたり、わいせつな行為をさせること③著しい減食や長時間の放置など監護の怠り④著しい心理的外傷を与える言動、とされています。

「叱られる側」の子どもの立場も考えてみる

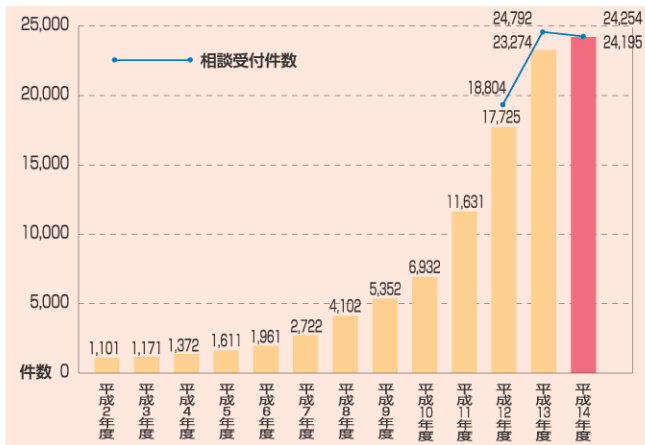


子育てについての実感



(注) 小学4年生～中学3年生の子どもを持つ親2,266人を対象に調査
資料：「低年齢少年の価値観等に関する調査の概要」平成12年・総務庁（当時）

児童相談所における虐待相談処理件数の推移



資料：「平成15年度 全国児童相談所長会議」資料より作成

「児童虐待」として寄せられる相談件数が年々増えています。もっとも信頼を寄せるべき親からの虐待は、子どもの心に大きな傷を与えます。虐待が疑われるときは、早期発見、早期対応が何よりも大切です。

いちばんの友達はテレビ、 なんて寂しすぎる。



テレビやテレビゲーム、ビデオにばかりのめり込むと、屋内に閉じこもる、人や自然とふれあう体験が不足する、人間関係をつくる力や他人を思いやる心が育たない、生や死の現実感覚が薄くなる、仮想と現実の区別がつかなくなるなど、子どもの健全な心の成長に影を落としかねません。

友達との遊びや自然体験などの機会を用意し積極的に参加させるとともに、テレビやテレビゲーム、ビデオにばかりのめり込み過ぎないようにルールをつくり、それを守る習慣をつけさせましょう。

テレビやテレビゲームに浸らせない



ほんわか
本和加家の場合③



2. しつけ

